

「計画」

甲賀市立貴生川小学校

令和8年度 我が校の学ぶ力向上策

【県目標】 第三期学ぶ力向上滋賀プラン  
夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学ぶ力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ  
○発達の段階を踏まえた言語活動の充実  
○1人1台端末等の効果的な活用  
○自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】  
学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を育む教育の充実  
○I K O K A学習デザインを基盤とした主体的・対話的で深い学びの実現  
○「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりや目標をもち自ら学びに向かう態度を育成するための家庭学習の推進・充実  
○教育DXに向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」のツールとしてのICTの効果的な活用による情報活用能力の育成

【学校の目標】  
誰もが安心して、居場所のある「わくわく」する学校 ~ひろがる笑顔・つながる心~  
○9年間の学びを踏まえたわくわく学べる教育課程・授業づくり ○主体的な学習習慣の形成  
○基礎基本の徹底（聞く・話す・読む・書く） ○自分の考えをまとめ、表現・記述する力の育成  
○情報端末の効果的な活用

【現状と課題】  
○視点1  
(1) 教員一人ひとりの授業力や経験値に差があり、子どもが学びを実感できる授業づくりが保証されていない。  
(2) 児童が端末を使用する姿は多く目にするが、学び合いという点において、効果的な活用ができていないと言えない。  
○視点2 一人ひとりのよさや違いに目を向けられる児童が少なく、互いを認め合える集団に至っていない。  
○視点3 理想（取組の内容や種類）と現実（教員の時間的・精神的余裕）に開きがあり、足並みの揃った実践がなかなかできていない。

取組事項および評価指標

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり	
取組事項	評価指標
①算数科の授業づくりを軸に、「わくわくのある授業をつくるには？」について全教員で研究を進める。 ②学び合いの場面において、多様な考えがあることに児童が気付くようなタブレットの活用方法について、教員個々に探っていく。	①学校の生活アンケート（児童）「学習することが楽しい」肯定的な回答90%以上（強い肯定50%以上） ②学校の生活アンケート（児童）「タブレットを使うと、『こんな考えもあるんだ』と気付くことがある」肯定的な回答90%以上（強い肯定50%以上）
【視点2】学びを支え合う集団づくり	
取組事項	評価指標
①友だちのよさや違いに目を向けることができ、互いを認め合える学級づくりを推進する。	①学校の生活アンケート（児童）「学級の友だちは、自分のよいところを認めてくれている」肯定的な回答90%以上（強い肯定50%以上）
【視点3】協働して取り組む学校づくり	
取組事項	評価指標
①学校として目指す学力向上の方向性を職員間でしっかりと共有する。 ②朝学習の取組を継続可能なものにする事で、足並みの揃った実践を目指す。	①学校の生活アンケート（学校職員）「校内研究など、学校が目指す学力向上の方向性を理解している」肯定的な回答90%以上（強い肯定60%以上） ②学校の生活アンケート（学校職員）「現在の朝学習の取組は、無理なく続けられる内容である」肯定的な回答90%以上（強い肯定75%以上）

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

・4月中に、全教職員に向けて「学ぶ力向上策」についての説明を行い、年度初めの共通理解を図る。  
・視点1と視点3は、校内研究主任、視点2は、こころ部会長（人権教育・特別支援教育推進）が中心となって実践を進めていく。実践内容は、部会で検討し、できるだけ多くの教職員を巻き込むことで、当事者意識を生む。  
・前期と後期のアンケート結果を保護者や地域に発信するとともに、教職員間でも確実に共有し、それまでの取組についての振り返りを行う。